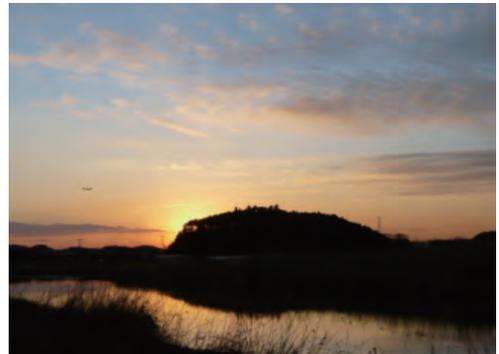


住まいづくりは幸せづくり

今月の写真



散歩中 冬の栗山川



ひとりごと

ニュースレター woody-akiba

新年あけましておめでとうございます。このお正月はいかがお過ごしでしたでしょうか？幸いにも天候に恵まれ、元旦から抜けるような青い空を見ることができました。また夕陽の美しさも格別に目に染み入りました。今年の正月休みも駅伝を見て、外に出ては骨身をさらけ出した樹木や山々の冬景色楽しむ、そんな日々でした。新年を迎えるたび、新たな気持ちで今年の目標を掲げるのですが、いざ日常の業務が始まれば現実のなかに埋没して、またしても三日坊主に終わってしまいます。ですから今年の目標は「三日坊主を12回」としたいと思います。

本年も皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。健康で豊かな毎日になりますように。
(平成20年1月7日)

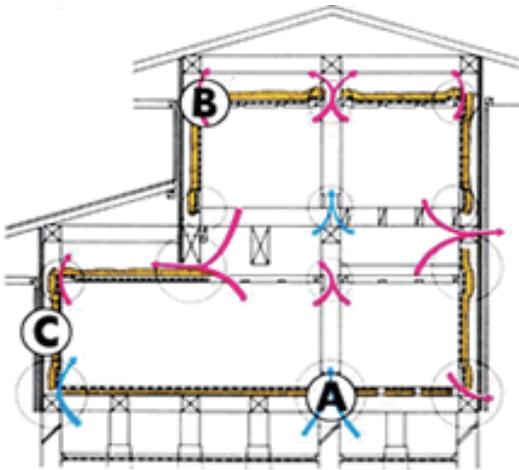
毎年、季節はめぐりめぐってまた一年のなかで一番寒い季節を迎えました。今号では、暖房すればすぐに温まる家と、なかなか温まらない家の違いを簡単にご説明したいと思います。この十年ほどで住宅の断熱性は格段に進歩しました。それでは十年以上前に建てられた家はどうすれば暖かく、省エネルギーの住まいにすることができるのでしょうか。囲炉裏や火鉢で採暖から始まり、個室暖房の時代も過ぎ去り、いまや全室暖房が可能になりました。気密と断熱そして換気のバランスを基本とした省エネルギー住宅の時代になりました。十年以上前に建てられた住宅を快適に変身させる「断熱リフォーム」をご提案させていただきたいと思います。

住まいづくりは幸せづくり

快適な冬を過ごすために＜住まいの断熱＞

冬の寒さが身にこたえる季節になりました。この時期、建築して20年程度経過した住まいでは、
 足元が寒い。
 廊下やトイレが寒い。
 お風呂が寒い。
 窓に水滴がびっしりつく。
 押入れがジメジメしている。
 部屋がなかなか暖まらない。

と感ずることがあるのではないのでしょうか。



上は1970年台(昭和50年代)に建てられた住まいの空気の流れです。床下から冷気が侵入して、壁を伝わり天井まで通っていきます。またスキマから暖房の熱が逃げてしまうのです。

寒さがしみるのは家が古いからしかたがないとあきらめてはいませんか？断熱性能を改善して、室内環境を変える方法があります。天井にはブローイングといって断熱材を吹き込み、床には断熱材を床下から充填します。床下からの気流(冷気の侵入)をとめれば格段に断熱性が向上します。

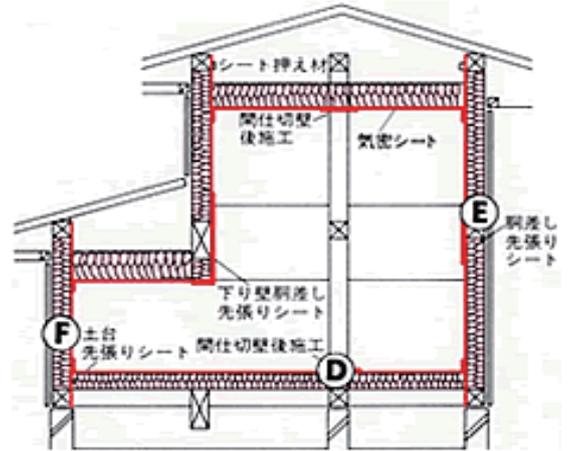
窓ガラスをペアガラスに、もしくは別にインナーサッシを取り付ければ申し分ありません。

冬の寒さだけでなく、夏の暑気にも大きく貢献してくれることでしょう。この断熱工事を耐震リフォームや設備のリフォーム、さらには内装の模様替えとあわせてすすめていけば、大変身！新築同様の快適な住まいとなることでしょう。

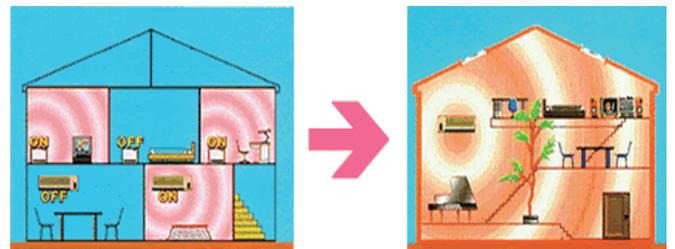
断熱材の歴史

1970年以前には断熱材ほとんど使われていませんでした。1970年台後半に50mmの断熱材が使われ始め、1980年代に省エネ基準が制定されると同時に使用が推進されました。しかし、壁のみで床天井へは入れない場合も多かったようです。

1992年に新省エネ基準が制定されると断熱性能は大きく進歩し、2000年の次世代基準が制定により、高断熱高気密の時代がスタートしました。



上は高断熱高気密住宅の例。気密シートで覆われ16k100mmの断熱材で家が包まれます。冷気の侵入は遮断され、冬も夏も省エネが実現され、過ごしやすい快適な住まいとなります。



個室暖房から省エネで全室暖房の時代へ
 (図の使用 旭ファイバ-ガラス資料より)

発行者 秋葉建設株式会社 秋葉 忠夫
 〒289-2163 千葉県匝瑳(そうさ)市南神崎52-1
 電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
 URL <http://www.woody-akiba.com>
 Email master@woody-akiba.com